

## 中ノ島と海士町

海士町は島前の中で 2 番目に大きい中ノ島にある。この島のおよそ 2,300 人の島民の多くは農業または漁業に従事している。海士町の主要な生産品は（肉用の）牛、海塩、そして岩牡蠣と呼ばれる大きな牡蠣だ。

島前は火山の山頂が崩落し、窪地に海水が満たされ形成された。中ノ島の北に位置する明屋海岸では、島前の火山が作り出した自然の素晴らしい光景が見られる。赤いスコリアの険しい岸壁は、火山の噴火により勢いよく空気中に吐き出されたマグマが堆積し酸化による変色を伴って固まったもので、浸食された小さな島々が浮かぶ澄んだ入り江にそびえ立っている。南西に向かって、島前カルデラ展望台から内海と島前の他の島々を眺めることができ、成層火山が大きく陥没し、その縁部分が島々を形成していることが思い起こされる印象的な光景である。

自然の美しさと豊富な資源も一部相まって、中ノ島は長い間貴族や天皇たちの流刑地にされていた。平安時代（794–1185）には、失脚した朝廷貴族が政治的に影響を及ぼすことがない離島にしばしば配流されていた。著名な歌人である小野篁（802–852）は中ノ島の中心にある金光寺山に 1 年以上流罪に処され、1221 年には後鳥羽上皇（1180–1239）が幕府討伐に失敗し同じく島流しとなった。後鳥羽上皇は崩御するまでこの島で過ごし、1939 年に彼の死後 700 年を記念して、隠岐神社が建立された。

訪問者は海士の装飾や彫像には、共通してしゃもじが登場することに気づくだろう。このモチーフは地元で毎年 8 月に開催されるキンヤモニヤ祭りと関係がある。年次行事である行列の一環として、住民たちは両手にしゃもじを持って祭りの呼び物である民謡を踊る。